

第24回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年10月19日（木） 10：00－12：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、青木委員、下村委員、中村委員、松尾委員、松本委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、佐藤参事官、守山参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官

奥野 真

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長

鎌田 俊彦

4. 議事要旨 (○：質問・意見等 ●：回答)

(1) 宇宙基本計画工程表改訂に対する意見募集結果について

宇宙基本計画工程表改訂に対する意見募集の結果について、資料1に基づき事務局から説明を行った。

(2) 国際宇宙ステーション計画を含む有人宇宙活動について

国際宇宙ステーション（ISS）の運用状況、新たな日米協力関係の構築及び、HTV-Xの開発について、資料2-1に基づき、文部科学省から説明があった。説明の後、以下のような意見等があった。

○小型回収カプセルによるISS共通システム運用経費（CSOC）の相殺の可能性とあるが、これはどういう意味か。

●HTV-Xで検討している小型回収カプセルによるサンプル回収という機能を、CSOCにおける日本側分担の対象とする可能性について、米国と交渉している。

○HTV-X単体での寿命はどのくらいか。

●現行のHTVの寿命は45日であるのに対して、HTV-Xでは1年半を想定している。

○HTV-Xは、ISS運用終了後も軌道用実験に用いるなど、波及効果があると考えている。

○材料研究について、JAXAとNASAで実験装置の相互活用とあるが、このような取り組みは今後広がっていくことが期待できるのか。

●これまでのISSの利用は各国が独立して進めていた。今回、日米間の協力の枠組みができたことで、このような実験装置の相互活用の取組が実現した。今後もこのような取組を進めていきたい。

○先日のマウスの実験など、ISSでの実験成果が出てきていると感じている。JAXAにはホームページ等を通してのより一層の積極的な公開を期待する。

(3) 国際有人宇宙探査について

国際有人宇宙探査に関して、国際的な宇宙探査の状況及び我が国の宇宙探査の状況について、資料2-2に基づき、文部科学省から説明があった。説明の後、以下のような意見等があった。

○有人探査の意義については十分な議論が必要。

(4) 宇宙産業及び科学技術の基盤の維持・強化に向けたその他の取組（スペースデブリ）について

宇宙基本計画及び宇宙政策委員会中間とりまとめ(平成28年度)において、スペースデブリ対策が取り上げられたことを踏まえ、スペースデブリを含めた国際的なルールやガイドライン作りの取組の推進、国際標準への対応、研究開発、技術基準の検討等について、資料3に基づき、事務局から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

○官民の連携が重要とのことであるが、民間にはどのようなことを求めているか。

●スペースデブリに関する国際標準の議論や研究開発の分野での貢献を望んでいる。

以 上